

「健口美[®]」レポート

2023

令和5年度活動報告書

2023年度 活動報告書 「健口美」レポート

🍀 ご挨拶

公益財団法人 ライオン 歯科衛生研究所

理事長 濱 逸夫



私どもの口腔保健普及活動は、口腔衛生への関心を高めることを目的に1913年に開催した「ライオン講演会」を原点としています。また、1921年には日本で最初となる児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開院しました。この2つの活動が当財団の前身となっています。2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、口腔保健の普及啓発を図り、心身の健康と福祉に寄与することを目指し、さまざまな活動を展開しております。

2023年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針2023）」には、健康寿命を延伸し、高齢者の労働参加を拡大するために、健康づくり・予防・重症化予防を強化するとの考え方の下、全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積・活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組の推進、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実などに取り組むことが明記されています。このように、歯や口の健康は、生活の中で大切な機能を担っており、その重要性はますます増してきています。

人々の生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルスは、「5類感染症」に移行され、人々はコロナ禍以前の生活をとりもどしましたが、マスクの着用や手洗い実施による感染予防の習慣化は定着し、人々の健康への関心が高い状態が継続しています。このような環境の下、ライオン歯科衛生研究所は、人々が健康で幸せな毎日を過ごし、満ち足りた人生を送れるよう、一生涯を通じた予防歯科の実践に繋がるオーラルケア習慣の普及啓発活動や口腔保健に関するさまざまな事業を進化、拡大することにより、サステナブルな社会の実現に取り組んでまいります。

この度、当財団の活動をより多くの方々にご覧いただくことを目的に年次報告書「健口美」レポート2023を作成いたしました。ご高覧いただければ幸甚に存じます。今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

🍀 「健口美」に込めた想い



（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」「話す」「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！」「健口美」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体の健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」と言う意味が込められています。

◎ 財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科

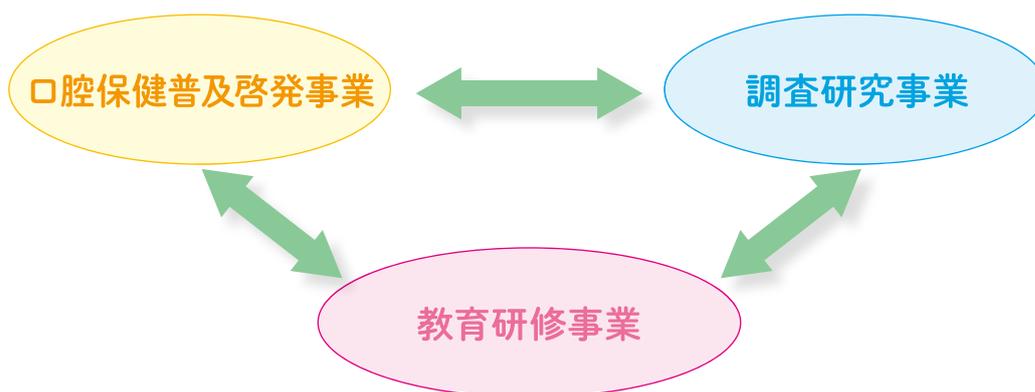
衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」「調査研究事業」「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

- 1 口腔保健普及啓発事業** ▶ 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- 2 調査研究事業** ▶ 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- 3 教育研修事業** ▶ 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康を保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

■ (公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



3つの事業を通して得られる知識やノウハウ

口腔の健康の保持・増進を通して、生活の質(QOL)の向上に貢献しています。

2023年度ピックアップトピックス

🍀 日本老年歯科医学会第34回学術大会で発表し、表彰されました

機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究

超高齢社会の日本では、健康寿命の延伸のために、オーラルフレイルや口腔機能低下症への対応が求められています。口腔機能の低下は、本人の自覚がないまま進行しやすいため、早期発見・早期対処が重要となります。

そこで、当財団ではオーラルフレイルや口腔機能低下症を改善・予防することを目的とした研究を推進しております。

私たちは、口腔機能低下症の診断項目の一つである口腔乾燥に着目し、東京医科歯科大学と共同で口腔乾燥の効果的な治療方法を確立することを目的に研究を行いました。

近年、機械的刺激によって筋肉や骨に様々な影響を及ぼすという基礎研究成果が多数報告されています。

そこで、本研究では投薬などの化学的な刺激を用いない治療法を目指し、振動マシンによる一定のメカニカルな振動を唾液腺に与えた際の安静時唾液分泌量および口腔湿潤度に与える影響について検討しました。

東京医科歯科大学に来院した口腔乾燥の患者17名(平均年齢75±8歳)に対して、振動マシンを使用した機械的刺激を週2回、4週間(計8回)与えました。振動マシンによる刺激の方法は、振動マシンのプレート上に緩衝材をのせ、その上に肘を置き、親指を顎の下、他の手指を耳の前の位置(唾液腺がある位置)に当てた状態で30秒間

の振動を3セット与えました。介入前と介入4週間後の唾液分泌量および口腔湿潤度の測定結果について比較検討しました。

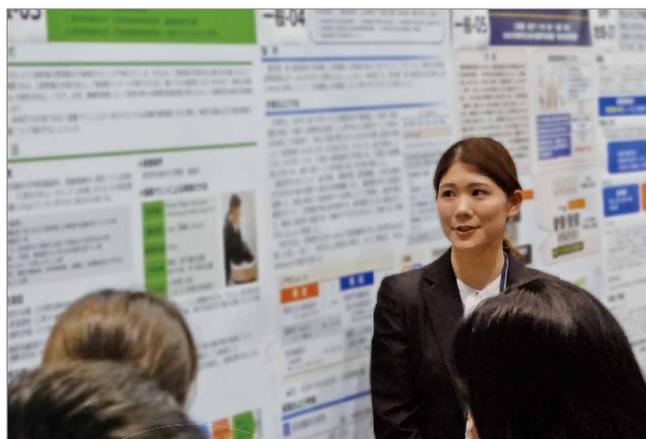
その結果、振動マシンによる唾液腺への機械的刺激が、唾液分泌量および口腔湿潤度の改善に有用であり、口腔乾燥を改善する新たな手法となりうる可能性を示しました。また、機械的刺激は刺激直後の一時的な効果ではなく、継続的に唾液分泌量を増加させることが期待できたため、今後より詳細に検討していきたいと考えております。

本研究結果は、2023年6月16日～18日に開催された日本老年歯科医学会第34回学術大会にて優秀ポスター賞のコンペティション候補に選出され、表彰されました。

また、本学会では、他にも2件のポスター発表を行いました。今後も、高齢者の健康寿命の延伸に寄与できるよう調査研究を行い、情報発信に努めてまいります。

【学会発表内容】

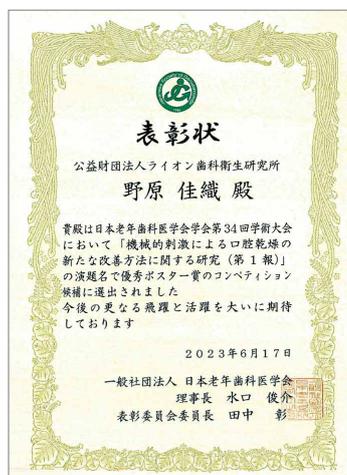
1. 「機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究」(筆頭)
2. 「高齢者の唾液分泌量と咬合状態との関係性」(筆頭)
3. 「オーラルフレイル対策サービス ORAL FIT の有用性検証:パイロットスタディ」(共同)



ポスター発表を行う様子



表彰の様子



表彰状

口腔保健普及啓発活動

第80回全国小学生歯みがき大会を開催

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、「歯と口の健康週間(6月1日～10日)」に合わせて開催しています。1932年に第1回大会が行われ、これまでに延べ約273万人の小学生が参加しました。

第80回大会は、DVD教材を視聴する形式で、全国47都道府県および海外4か国地域の小学校から総数4,934校、約27万人の参加申込みがありました。

今大会は、「歯と自分をみがこう。」をテーマに掲げ、明海大学 安井利一先生監修の下、高学年の健康課題である「歯肉炎」を題材としました。本編は、歯肉炎の原因や予防方法、生えかわり期に合わせた歯みがきやデンタルフロスの使用方法を中心として内容を構成しております。参加した先生方からは、「歯みがき習慣を振り返る良い機会になった」「歯垢の映像など可視化された教材と歯みがきも実習できて良かった」

などのご意見をいただきました。また、参加した児童の約90%が歯みがき大会後にデンタルフロスを使用したいと回答し、よりよいオーラルケア習慣に繋がる結果も得られました。

生涯にわたる健康づくりとして小学生の時期からオーラルケア習慣を身につけることは重要であると考えます。

今後も、歯みがき大会を通して、小学生の歯と口の健康づくりを支援してまいります。



歯みがき大会に参加する児童の様子

歯科健診のメリットと歯周病の早期予防について情報発信

ライオン株式会社主催のメディアセミナーにて、「歯科健診のメリットと歯周病早期予防の重要性」というテーマで情報発信を行いました。

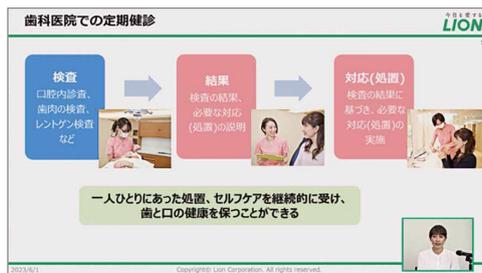
現在、日本では高校までが法令により歯科健診が義務化されていますが、成人期における歯科健診は特定の労働者を除き努力義務となっております。歯科健診が義務化されていない成人期において、歯周病の罹患率が増加しているというデータもあります。(平成28年歯科疾患実態調査より)

また、歯周病を早期予防するためには、20代、30代の若いうちから、歯科健診で自分のお口の状況を把握し、歯科医院で自分に合った対処・対応を行うことがとても重要です。これらをふまえ、セミナーでは、歯科健診を継続的に受診することによるメリット、歯周病のリスクファクターやセルフチェックのポイント、歯科医院における定期受診

の重要性についてお話ししました。

発表内容は新聞やWEB等に掲載され、多くの方へ情報発信することができました。

今後も、口腔・全身の健康維持・向上のために、歯科健診を受けることや歯周病の早期予防の重要性について啓発してまいります。



セミナー配信画面

市民向けオーラルフレイル予防セミナーを実施

2023年11月、某県自治体の健康増進課と某市歯科医師会から依頼を受け、市民向け歯科講座にてセミナーを実施しました。

今回依頼をいただいた地区の高齢化率は全国平均よりも高く、健康増進課は「健康寿命を長くし、できるだけ自立した生活を送ること」を健康目標としています。

そこで、市民一人一人がオーラルフレイル予防を知り、実践して欲しいという思いから、歯科医師会と共同で市民向け歯科講座を開催しました。

セミナーでは、オーラルフレイルや口腔疾患の基礎知識、予防方法

をお伝えし、実習として当財団の「かみかみゴクゴク体操」の動画を見ながらトレーニングを行いました。参加者は積極的に身体やお口回りを動かして楽しんで実施していました。

また、セルフケアの実習でも熱心に実践しており、口腔健康への関心の高さがうかがえました。参加者の中には介護職の方も多く、専門職を通じて生活者へ、オーラルフレイル、口腔疾患予防の波及効果も期待できるのではないかと感じました。

今後も様々な活動を通じて、生活者の健康に貢献したいと思います。

口腔保健普及活動

職域成人に向けた「オンデマンドセミナー」の実施

近年、職域での歯科セミナーはリアル、オンライン、オンデマンド配信と実施方法が多様化しております。

7月に某健康保険組合からの依頼を受け、約15分の動画を3編、オンデマンド配信を行いました。

配信は、短時間の動画を好きな時間に見ることが出来ることもあり、参加者は当初の予定を大幅に超える866名になりました。

参加者からは、「知っているようで、知らなかったことに気づくことができ、この知識を活かしたい」「好きな時間に受講出来てよかった」などの感想をいただきました。

また、当財団のセミナーでは、教材として歯ブラシなどのセルフケアグッズを配布しています。聴講後にすぐに試すことができ、参加者の行動変容に繋がると考えています。しかし、オンデマンド配信の場合、グッズ配布が事業所や健保の負担になります。

そのため、今回は、事前に依頼者様と相談し、参加者の希望する場所へ個別発送を行いました。「聴講後すぐに実践できて良かった」など、セミナー内容と合わせ満足度の高い意見をたくさんいただきました。

今後も、色々な工夫をして取り組みやすいセミナーを実施してまいります。

高齢者向け講演会の実施

2024年1月に筑波大学が運営する「みんなの使いやすさラボ」にて、高齢者31名（対面：23名 オンライン：8名）に講演、意見交換を行いました。

講演では、口腔衛生活動の変遷やオーラルフレイル予防として、食事中にむせてしまう、飲み込みにくい、噛みにくい食べ物がある…など気づかない間に衰えていくお口やお口の周りの機能について、体操などの実習を交えながら実施しました。実習にも積極的に参加

していただき、参加者の関心の高さがうかがえました。

さらに、意見交換では参加者の皆様から、自身の生活で取り入れている口腔機能体操や口腔清掃習慣のお話があり、講演に入れた方がよいポイントなどの貴重なご意見をたくさんいただきました。

今回いただいた意見も参考にしながら、より良いセミナー活動を行い、生活者の健康に貢献していきたいと思っております。

特別支援学校での歯科保健活動の実施

当財団では、障がいの有無に関わらず「歯と口の健康」の支援を行うため、合理的配慮に心がけた歯科保健活動を行っております。

2024年1月29日、三重県立子ども心身発達医療センターに入院中の児童生徒が通学する三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校にて、病弱の児童を対象に「歯と口の健康教室」を実施しました。児童の特性として見通しが立たない状況では不安に感じてしまうため、目次スライドを活用し場面転換の際は丁寧に話を進めたところ、児童の皆さんは最後まで集中して話を聞いてくださいました。

本活動においては、事前に児童・生徒の状況や課題を伺い、特別支援学校の先生方や、障がい者支援団体の方々と連携しながら個々の障がいに配慮した授業を心がけています。

2023年度は東海地方を中心に、知的障害2校、聴覚障害2校、肢体不自由1校、病弱1校（合計6校）の特別支援学校に対して啓発活動を行いました。

今後も、障がい者の方々に対する口腔保健普及啓発活動を進めてまいります。

※「合理的配慮」とは、障がいのある方が日常生活や社会生活で受けるさまざまな制限をもたらす原因となる社会的障壁を取り除くために、障がいのある方に対し、個別の条項に応じて行われる配慮をいいます。



三重県立子ども心身発達医療センター



三重県立かがやき特別支援学校あすなろ分校の校舎

LINEを活用した歯科衛生士向けイベントを開催

歯科衛生士を対象に、気軽に、隙間時間に活用してもらえるものとして、2023年4月に公式LINEアカウントを開いたしました。LINEを通じて、予防歯科に関する情報提供や歯科衛生士同士の情報交換などを行っております。

10月1日にライオン株式会社本社にて、LINEお友だち限定のイベントを開催しました。「口腔機能」をテーマに、歯科と耳鼻咽喉科の2つの資格を持っていらっしゃる植草康浩先生にご講演いただき、多数のご応募の中から抽選で約30名の方にご参加いただきました。



当日のイベントの様子

このイベントは肩肘張らずにお茶会のような雰囲気です。学びのセミナーを目指し、講義・実習だけでなく、参加者同士の交流タイムも設けました。実習では、スクリーニングの1つである反復唾液嚥下テスト(RSST)のコツや、先生おすすめの喉の間接訓練「ペットボトルつぶし体操」など、臨床現場で即実践できるような内容を教えていただきました。交流タイムでは歯科衛生士を続けている理由や口腔機能の検査の自院での取り組みなど、他の歯科衛生士との情報交換が活発に行われていました。

今後もLINEを通じて、情報提供やイベント開催などを継続して行っていきたくて考えております。



講師をつとめていただいた植草先生

2023年4月16日 ライオン歯科衛生研究所 予防歯科セミナーを開催

2023年4月16日ライオン歯科衛生研究所主催の予防歯科セミナーを開催いたしました。テーマは「歯科の未来、これから私たちができること -求められるMy歯科衛生士になるために-」とし、今回は会場(ライオン株式会社本社)およびオンラインで開催し、多くの方々にご参加いただきました。

講演は長谷川嘉昭先生(長谷川歯科医院院長)、川崎律子先生(同歯科衛生士)が、「チーム医療で何を診るか」と題し、歯周治療による戦略的な診断を考えることを本講演の目的としたうえで、歯科医師の目線と歯科衛生士の目線をバランスよく診療に活かすデンタルカンファレンスの重要性を解説しました。

続いて植草康浩先生(双葉耳鼻咽喉科医院医師(耳鼻咽喉科)/歯科医師)が「飲みこめていますか? 咀嚼のそのあと」と題し、ご講演いただきました。植草先生は、歯科医師と耳鼻咽喉科医師の両者の経験から、患者さんと接する際「食事をとれているか」などの摂食に関する質問をし、喉の奥の確認を行って欲しいと強調しました。また、嚥下のスクリーニングとして歯科診療所でも検査可能な反復唾液嚥下テストのやり方と、ペットボトルを使った嚥下の間接訓練をご紹介いただきました。

石川ひろの先生(帝京大学大学院公衆衛生学研究所教授)は「患者さんに伝わるコミュニケーション」と題して、同じものを見ていても人によって見え方が変わる場合もあること、また言葉のみによる伝達は

人によって捉え方が異なることなど、コミュニケーションの難しさを参加者に体験してもらい、ご説明いただきました。効果的に予防行動を促し、治療を継続していくためには、コミュニケーションを通じて、患者さんの考えを理解すること、その上で医療者としての考えを分かりやすく伝え、理解をしてもらうことの両方が大切であると強調されてきました。

最後に西沢邦浩先生(日経BP総合研究所 客員研究員)と講師の方々による「-求められるMy歯科衛生士になるために-」をテーマにパネルディスカッションを行い大盛況のうちに終了いたしました。また、本セミナーは4月24日から5月15日までオンデマンド配信を行いました。



パネルディスカッションの様子

講演 1:長谷川 嘉昭(長谷川歯科医院 院長)/川崎 律子(長谷川歯科医院 歯科衛生士)▶チーム医療で何を診るか
講演 2:植草 康浩(双葉耳鼻咽喉科医院医師(耳鼻咽喉科)/歯科医師)▶飲みこめていますか?咀嚼のそのあと
講演 3:石川 ひろの(帝京大学大学院公衆衛生学研究所 教授)▶患者さんに伝わるコミュニケーション
パネルディスカッション:西沢 邦浩(日経BP総合研究所 客員研究員/「日経ヘルス」元・編集長)▶求められるMy歯科衛生士になるために

🔍 調査研究活動

第72回日本口腔衛生学会学術大会にて発表

歯を失う一番の原因は歯周病であり、歯数の減少と認知機能の関連が報告されたことから、歯周病と認知機能低下の関連を調べる研究に注目が集まっております。当財団でも国立長寿医療研究センター（長寿研）と共同で、認知機能低下と口腔状態の関連性を調べる研究を推進しており、これまでに認知機能と歯周病病態、口腔機能の関連について第65回春季歯周病学会学術大会で報告しました。

今回、新たに口腔清掃習慣との関連にフォーカスして解析した結果、認知症群は健常群やMCI（軽度認知障害）群に比べてブラッシング時間が短く、歯間部清掃器具の使用率が有意に低いことが判明しました。また、プラーク（歯垢）付着量の指標であるオレリー-PCRとMMSE（30点満点の認知機能検査）の相関について解析すると、オレリー-PCR値が

高いとMMSEスコアが低いといった負の相関関係が認められました。今回の結果から、認知機能低下と口腔清掃習慣に関連があることが明らかとなりました。

今後、軽度な認知機能低下の予兆となるような口腔状態の変化を見出すべく調査研究を継続するとともに、両者の因果関係についても明らかにしていきたいと考えています。そして、早期の予防歯科行動が認知機能低下の予防に繋がる可能性を探索する予定です。

【学会発表内容】

「もの忘れ外来患者の認知機能は 口腔清掃状態と相関する」

ダウン症のある子どもの口腔細菌叢に関する論文がBMC Oral Healthに掲載

ダウン症候群は21番目の常染色体が3本あることが特徴で、様々な健康上の問題を引き起こすことが知られています。口腔領域においては歯や舌に特徴的な形態がみられることが多く、高い頻度で歯周病の早期発症や重症化を引き起こすことが報告されています。歯周病の発症要因のひとつは、口腔細菌叢です。健康な口腔内では、さまざまな種類の細菌がバランス良く存在し、口腔組織を健全に保っています。しかしながら、そのバランスが崩れると、歯周病発症リスクが高まると考えられています。ダウン症候群における口腔細菌叢を調査した研究の報告例は少なく、その理解も十分なものではありません。そこで当財団ではダウン症候群の口腔細菌叢の特徴を明らかにし、口腔健康管理における新たな知見を提供することを目的に調査を行いました。

本研究では都内在住の1歳から13歳までのダウン症のある子ども27名と、比較対照として同年齢のダウン症を持たない子ども27名が調査対象者として登録されました。対象者から唾液を採取し、次世代

シーケンサーを用いて口腔細菌由来のDNAを読み取り、その細菌叢を比較しました。その結果、口腔細菌叢の多様性（存在する細菌種の数など）はダウン症群と対照群の間に有意な差は認められませんが、構成している細菌は有意に異なっていることが分かりました。さらに、対象者を乳歯列期と混合歯列期に分けて解析すると、対象者の年齢が上がるほどその差は大きくなることが分かりました。質問紙調査等による口腔衛生習慣はダウン症群と対照群との間に差が認められなかったことから、これらの細菌叢の違いはダウン症候群に特徴的なものであることが示唆されました。本研究の成果は、ダウン症のある人の歯周病の改善やその予防戦略の開発に繋がることが期待されます。

以上の調査研究に関する論文がBMC Oral Healthに「Salivary microbiome in children with Down syndrome: a case-control study」というタイトルで掲載されました。

当財団では今後も口腔細菌叢に関する研究を継続し、予防歯科に役立つ情報発信に努めて参ります。

日本歯科衛生学会 学術発表賞受賞（公益財団法人ライオン 歯科衛生研究所賞）の表彰

日本歯科衛生士会と日本歯科衛生学会は歯科衛生の向上と実践に根ざした学術研究において、優れた成績を上げ、人々の健康と福祉に寄与する研究発表に対して学術発表賞（公益財団法人ライオン 歯科衛生研究所賞）を毎年授与しています。当財団はこれに協賛し、学術の向上を支援しています。2023年9月16日～18日に開催された日本歯科衛生学会第18回学術大会（静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」）において、令和5年度日本歯科衛生学術発表賞の表彰式が行われ、受賞した3名の方に当財団の内山副理事長から副賞を授与しました。

第18回学術発表賞表彰者

〔口演発表賞〕

- ▶ 頭頸部がんおよび食道がん術後患者から分離したカンジダ株の検出状況と抗真菌薬感受性 矢野加奈子（広島県）
- ▶ 通所サービス利用者の歯科医療ニーズの実態および歯科衛生士によるアセスメントの有用性の検討 小原由紀（宮城県）
- ▶ 若年成人を対象とした口腔内感覚と栄養摂取状況との関連の検討 佐々木美緒（広島県）



表彰の様子

表彰者の皆さん

学術発表

当財団では大学や研究機関と連携して口腔保健に関する調査研究を推進し、健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。
2023年度は4件の論文、8件の学会発表、2件の外部助成を受けた研究活動を行いました。

アンダーライン:財団所員

誌上掲載

① 原著論文

- ①Keigo Nakamura, Masanori Koide, Yasuhiro Kobayashi, Teruhito Yamashita, Mai Matsushita, Hisataka Yasuda, Yuichi Ishihara, Nobuo Yoshinari, Nobuyuki Udagawa
"Sclerostin deficiency effectively promotes bone morphogenetic protein-2-induced ectopic bone formation"
J Periodont Res. 2023;58:769-779
- ②Naoki Saji, Yuichi Ishihara, Kenta Murotani, Akira Uchiyama, Akinori Takeda, Takashi Sakurai, Kenji Matsushita
"Cross-sectional analysis of periodontal disease and cognitive impairment conducted in a memory clinic: the Pearl study"
J Alzheimers Dis. 2023 Sep 28.

② その他

- ①金丸直史, 佐竹茉以, 安達詩季, 唐木隆史, 青山友紀, 永岡春香, 日野亜由美, 茂呂歩実, 貨泉朋香, 野原佳織, 廣松和歌子, 小林利彰, 岡田早苗, 熊谷千明, 中村由美子, 松永桃枝, 船山ひろみ, 朝田芳信
子供用IoT歯ブラシが子供の歯みがき行動および保護者の心理に与える影響について
小児歯科学雑誌 61 (3) 101-109, 2023.
- ②市橋透, 後藤理絵
"産業歯科保健活動に期待される効果と取り巻く課題"
産業医学ジャーナル 47(1): 60-66, 2024.

学会発表

- ①湯之上志保, 石原裕一, 武儀山みさき, 細久保和美, 伊土美南海, 野原佳織, 新明桃, 内山章, 松下健二
もの忘れ外来患者の認知機能は口腔清掃状態と相関する
第72回日本口腔衛生学会学術大会
- ②Atsuko Saito, Hiromi Funayama, Naoshi Kanamaru, Tomoka Kasen, Yoshinobu Asada
Plaque Removal Efficacy of New Developed IoT Toothbrush with Brushing Navigation for Children
International Association of Paediatric Dentistry 2023
- ③新明桃, 小林利彰, 鬼木隆行, 田崎雅和
高齢者の唾液分泌量と咬合状態との関係性
日本老年歯科医学会 第34回学術大会
- ④野原佳織, 小林利彰, 鬼木隆行, ニッ谷龍大, 駒ヶ嶺友梨子, 金澤学, 水口俊介
機械的刺激による口腔乾燥の新たな改善方法に関する研究
日本老年歯科医学会 第34回学術大会
- ⑤青山薫英, 内山千代子, 杉本真弓, 春田敏伸, 萩森敬一, 泉隆之, 後藤理絵, 菊谷武
オーラルフレイル対策サービスORAL FITの有用性検証:パイロットスタディ
日本老年歯科医学会 第34回学術大会
- ⑥青山薫英, 内山千代子, 杉本真弓, 春田敏伸, 萩森敬一, 泉隆之, 後藤理絵, 菊谷武
オーラルフレイル予防アプリケーションサービスORAL FITの使用性調査
第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- ⑦ファン ジャイ, 李 園莉, 野原佳織, 小林利彰, 鬼木隆行, 下村義弘
"心理・社会的ストレスが自律神経系活動と唾液腺活動に与える影響
一心拍と皮膚電気反応による検討"
日本人間工学会 第64回大会
- ⑧佐治直樹, 石原裕一, 室谷健太, 内山章, 武田章敬, 櫻井孝, 松下健二
認知症者では歯科受診が少なく歯周病が重度である:もの忘れ外来での歯科検診研究
第42回日本認知症学会学術集会

2023年度の外部助成活用事業

- ①石原裕一, 佐治直樹, 松下健二
高齢者認知機能低下に係る歯周病病態、口腔細菌および口腔機能の影響についての研究
科学研究費 基盤研究(C) 令和4年~令和6年 ライオン歯科衛生研究所
- ②松下健二, 佐治直樹, 石原裕一, 里直行, 多田浩之, 山田匡恵
歯周病菌とアルツハイマー病周辺症状の関連性とその制御に関する総合的研究
科学研究費 基盤研究(B) 令和5年~令和7年 国立長寿医療研究センター

評議員

評議員16名

	氏名	役職名	
評議員	糸田 昌隆	大阪歯科大学 医療保健学部 教授	歯学博士
評議員	大塩 繁生	ライオン株式会社	
評議員	川口 陽子	東京医科歯科大学 名誉教授	歯学博士
評議員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評議員	小和田 みどり	ライオン株式会社	
評議員	佐藤 秀一	日本大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	島田 康史	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 う蝕制御学 教授	博士(歯学)
評議員	柘植 紳平	公益社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評議員	仁井谷 善恵	広島大学大学院 医系科学研究科 口腔保健管理学研究室 助教	
評議員	西永 英司	ライオン株式会社	博士(歯学)
評議員	福田 洋	順天堂大学 大学院医学研究科 特任教授	医学博士(公衆衛生学)
評議員	松木 宏之	ライオン歯科材株式会社	
評議員	三宅 達郎	大阪歯科大学 歯学部 教授	歯学博士
評議員	柳沢 幸江	和洋女子大学大学院 総合生活研究科 研究科長	博士(栄養学)
評議員	吉田 直美	公益社団法人日本歯科衛生士会 会長 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 口腔健康教育学 教授	博士(歯学)

理事

理事13名

役職	氏名	役職名	
代表理事 理事長	濱 逸夫	ライオン株式会社 相談役 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事長	工学博士
代表理事 副理事長	内山 章	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 副理事長	博士(歯学)
業務執行理事	池永 和広	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事	
業務執行理事	堀池 祐子	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事	
理事	相田 潤	東京医科歯科大学 健康推進歯学 教授	博士(歯学)
理事	朝田 芳信	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
理事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 教授	歯学博士
理事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長・学長	歯学博士
理事	西沢 邦浩	日経BP 総合研究所 客員研究員	
理事	野村 正子	日本歯科大学東京短期大学 特任教授	
理事	三谷 章雄	愛知学院大学 歯学部 歯周病学 教授	博士(歯学)
理事	安井 利一	学校法人明海大学 理事	歯学博士
理事	山本 秀樹	公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事	歯学博士

監事

監事3名

役職	氏名	役職名	
監事	上林 博	上林法律事務所 辯護士	
監事	木村 直人	木村直人税理士事務所 税理士	
監事	石井 義唯	ライオン株式会社 常勤監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ



- 1913年 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921年 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932年 「第1回学童歯磨教練体育大会」(現:全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952年 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー1号」完成(写真④)
- 1958年 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961年 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964年 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965年 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984年 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992年 ライオン New Year セミナー(現:予防歯科セミナー)開始
- 1998年 マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004年 設立40周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005年 視覚障がい者向け歯の健康冊子 「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007年 ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2009年 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010年 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014年 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(2021年3月閉院)
「口腔機能への気づきと支援 ―ライフステージごとの機能を守り育てる―」を発刊
- 2015年 「健康をみがく笑顔をふやす」 シリーズ全4巻発行
- 2016年 LDH国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性]を開催(写真⑦)
- 2017年 「歯みがき100年物語」発行(写真⑧)
全国小学生歯みがき大会のDVD方式での開催をスタート
- 2021年 ライオン健康セミナー(現:予防歯科セミナー)Webによるライブ配信で開催をスタート
- 2023年 第80回全国小学生歯みがき大会を開催。約27万人がDVDで参加(写真⑨)



公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

本部事業所

〒111-8644
東京都台東区蔵前1-3-28
TEL.03-6739-9000
FAX.03-6739-9757

名古屋事業所

〒460-0003
名古屋市中区錦2-3-4
名古屋錦フロントタワー10階
TEL.052-220-6780

大阪事業所

〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
本町南ガーデンシティ5階
TEL.06-7739-8422